

『2010年度傷害報告』 の解説

(財)東京都スキー連盟
教育本部安全対策委員会

2010年度傷害事故集計表

提出287件 受講者数 7095名 受傷者数 24名 受傷率 0.34%

設問	No.	人数	No.	人数	No.	人数	No.	人数	No.	人数	合計					
傷害保険	01	自己傷害保険	5	02	対人賠償	1	03	対人対物賠償	4	自己+対人	5	自己+対人対物	5	23		
					対物賠償	3				自己+対物	0					
性別	04	男性	7	05	女性	0								24		
年齢	06	6歳未満	0	07	7-12	0	08	13-15	0	09	16-20	1	10	21-25	0	
	11	26-30	0	12	31-35	0	13	36-40	4	14	51-60	5	15	61以上	6	24
技術レベル	16	指	0	17	初級者	10	18	初級者	19	19	初級者	20	21	初級者	23	
体格	21	大	0	22	中	7	23	小	0						3	
滑走日数	24	0-3	0	25	4-6	0	26	7-10	5	27	11以上	0			5	
	29	21-30	0	30	31以上	0									5	
休養	31	充分	0	32	不十分	1									23	
準備体操	33	充分	22	34	不十分	1									23	
傷害名	35	捻挫	4	36	骨折	9	37	脱臼	0	38	切創	1	39	打撲	4	
	40	靭帯損傷	5	41	擦過傷・刺創	2									25	
傷害場所	42	前頭部	0	43	後頭部	0	44	顔面	1	45	頸部	0	46	肩部	3	
	47	上腕部	1	48	前腕部	0	49	手指部	0	50	胸部	1	51	背部	0	
	52	腹部	0	53	腰部	0	54	大腿部	0	55	膝部	9	56	下腿部	6	
	57	足首	4	58	その他	1									26	
全治日数	59	7日未満	4	60	8-14	1	61	15-21	1	62	22-30	5	63	31-60	6	
	64	61-90	2	65	91以上	1	66	未受診	1						21	
発生状況	67	講習中	15	68	自由時間	5	69	練習中	3	70	競技中	0			23	
発生時刻	71	9時まで	0	72	12時まで	10	73	15時まで	11	74	17時まで	2	75	ナイター	0	
	76	その他	0												23	
雪質	77	粉雪	3	78	湿雪	3	79	新雪	2	80	深雪	1	81	ザラメ	3	
	82	アイスバーン	2	83	踏み固めた雪	5	84	溶けかけた雪	3	85	その他	1			23	
斜面の傾斜	86	緩斜面	6	87	中斜面	9	88	急斜面	7						22	
斜面の状況	89	スムーズ	12	90	キツキツ・こぶ	4	91	ラフ	6	92	深雪	1			23	
ケルテ*状況	93	混雑	1	94	普通	13	95	すいていた	9						23	
ケルテ*整備	96	良い	7	97	普通	12	98	悪い	3						22	
原因	99	自己転倒	19	100	衝突	4									23	
自己転倒	101	回転失敗	15	102	人・物の回避	3	103	スタート・オーバー	0	104	技術不足	1			19	
衝突	105	自分から	2	106	衝突された	1									3	
衝突相手	107	人	2	108	物(人以外)	1									3	
相手の状況	109	講習中	1	110	自由時間	0	111	練習中	0	112	競技中	0			1	
ヒンディンク*	113	はずれた	11	114	はずれない	12									23	
調節方法	115	知っていた	18	116	知らない	4									22	
調整者	117	自分で	2	118	販売店	18	119	指導員	0	120	パトロール	0	121	知人・友人	0	
	122	その他・不明	2												22	
開放強度	123	強すぎ	1	124	適切	19	125	弱すぎ	0						20	

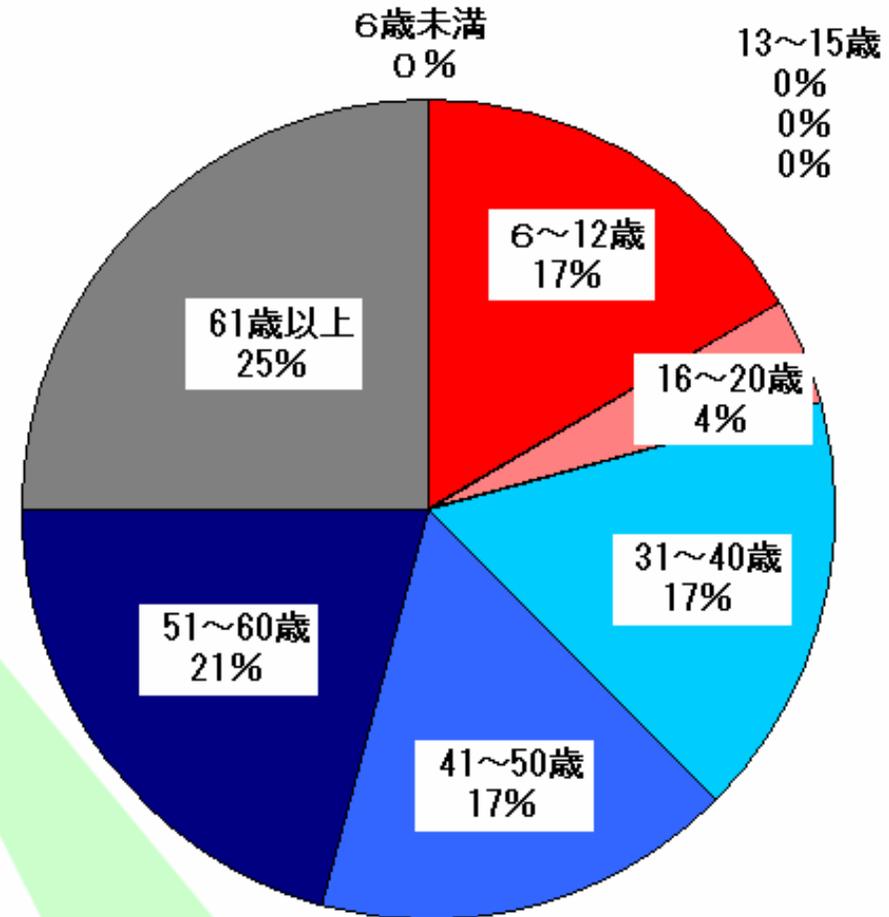
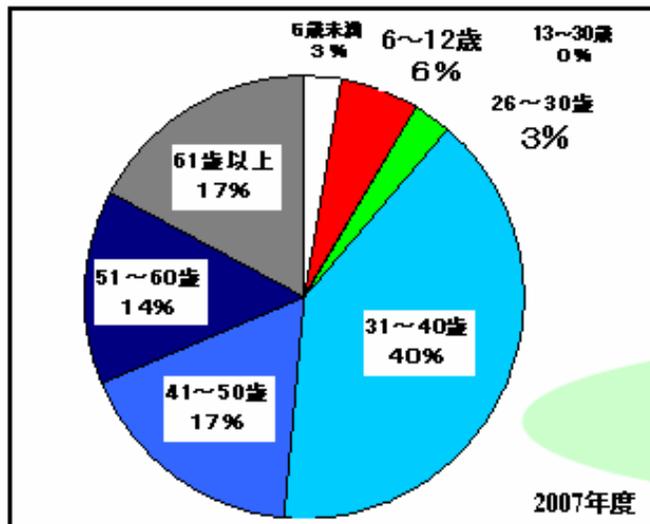
減少傾向が継続
八方尾根スキー場も
同じ傾向

10年来横ばい
全国平均の約10倍

全受傷者に対する年齢層別比率

受講者の
年齢分布を反映して
30歳代から上に広く分布

年齢の高い方が増加



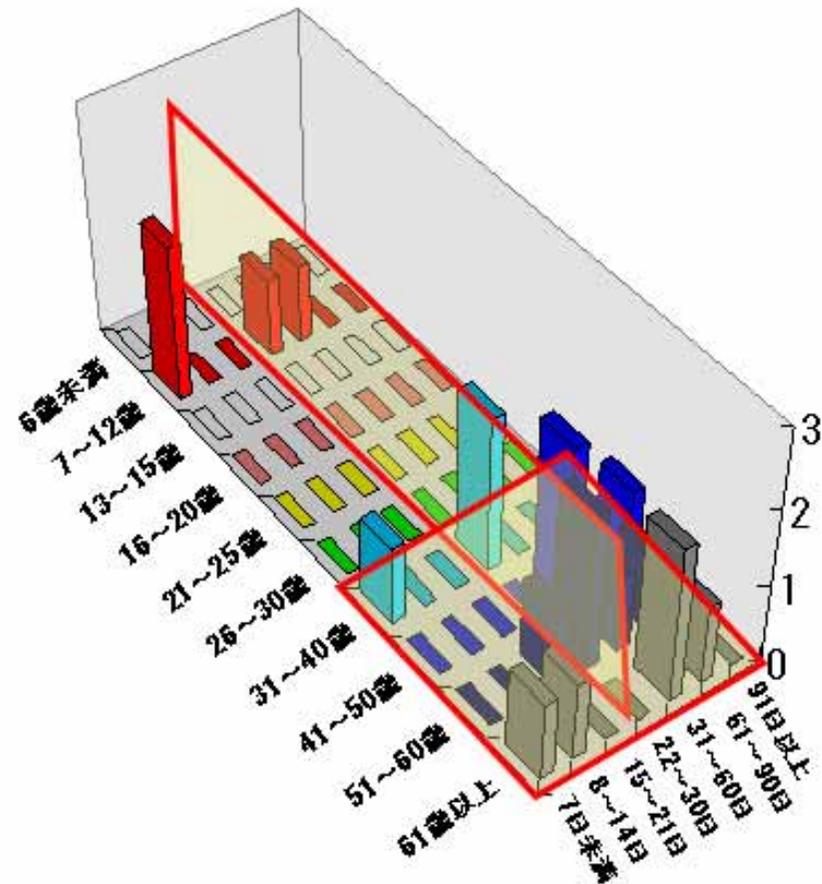
八方尾根スキー場では60歳以上は減少
SATの60歳以上の会員も元気に滑っている
反面、ケガも多いので要注意

年齢と障害重度との関係

重傷と軽傷とに2極化

若年層に比較し
中高年には重症もある

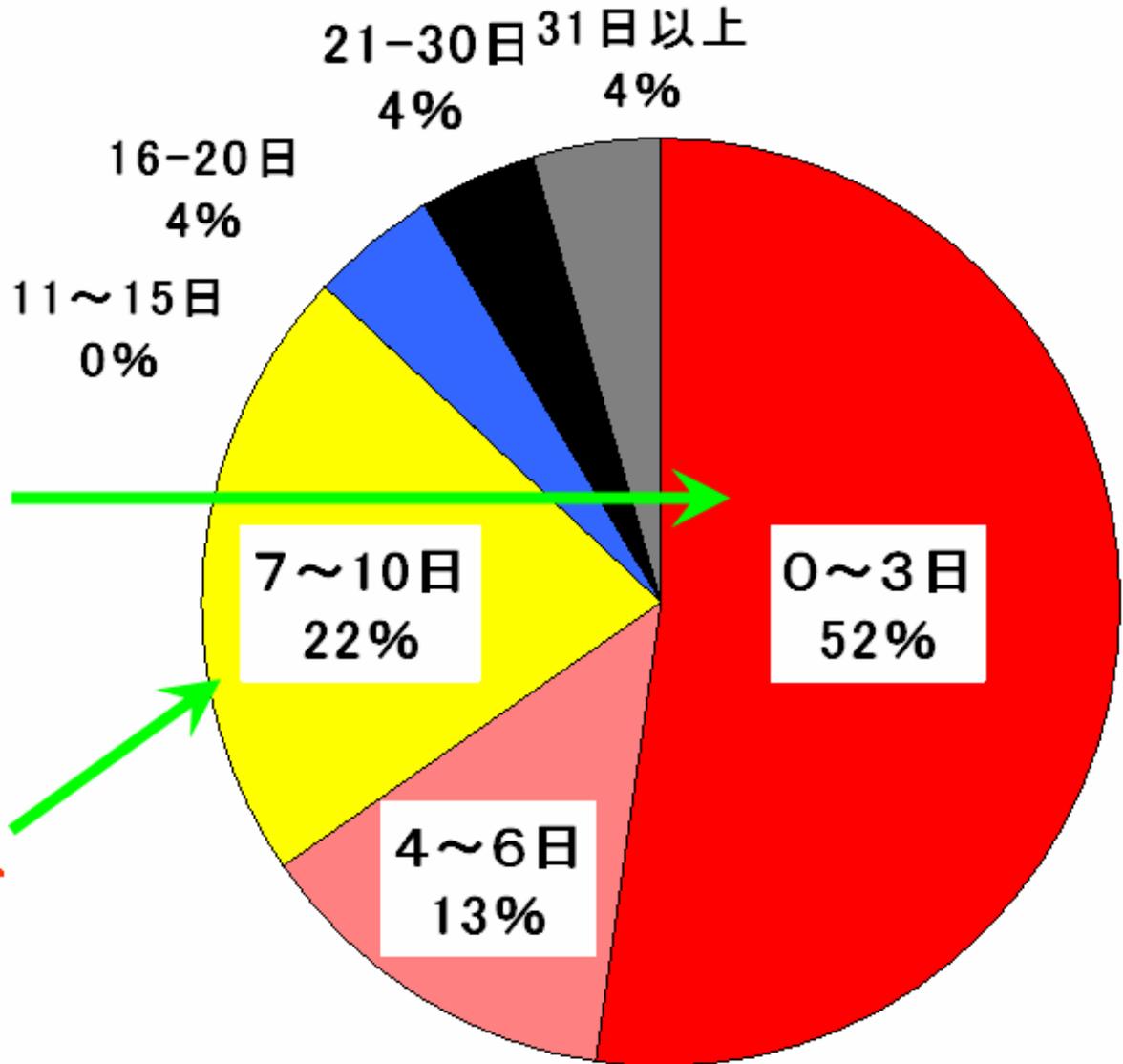
運動能力・体力
自己の意識と
実際との乖離



受傷までの滑走日数

滑走日数が
少ないうちほど、
傷害事故が多い

思い出すまで
無理をしない、
させない
思い出しても
気を引き締めて

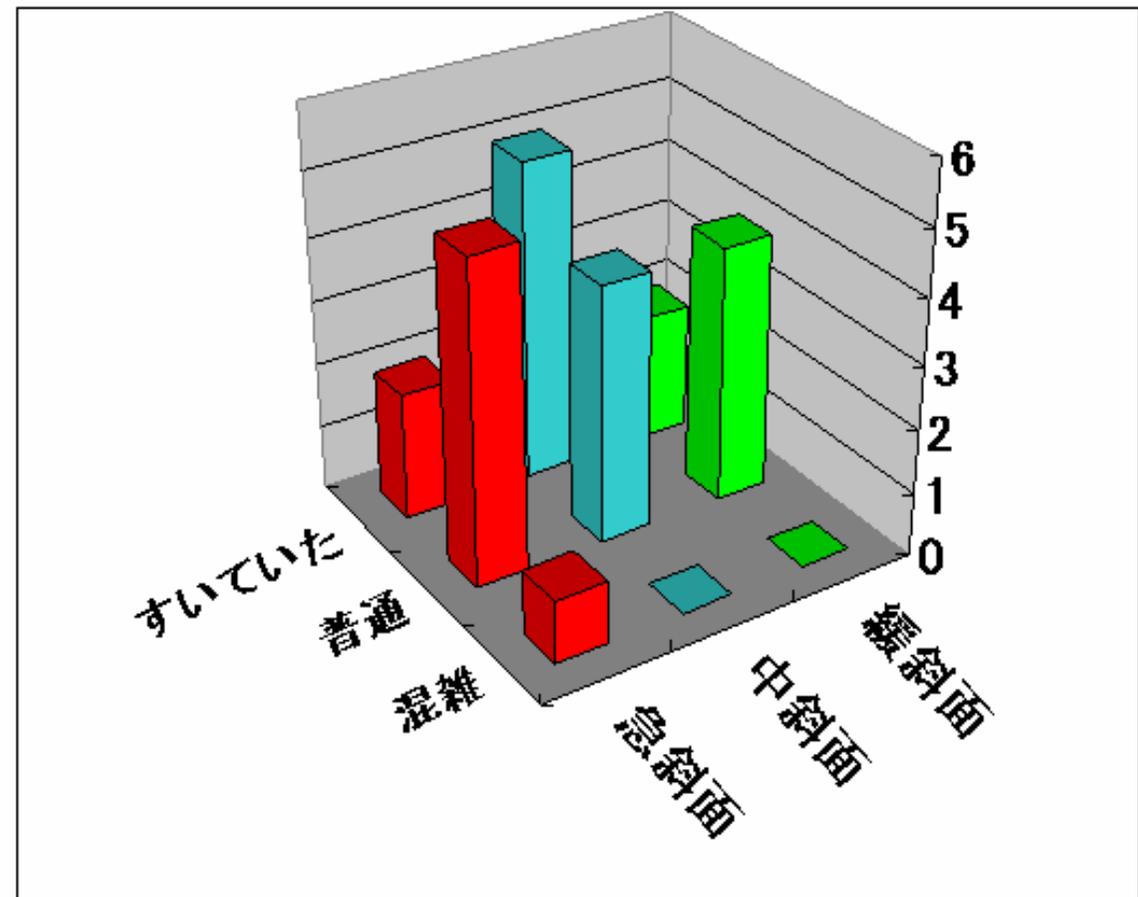


斜度、混雑状況と傷害度数

混雑していない
斜面で事故が多い
滑りやすい斜面こそ
十分に気をつけて

正しい状況判断

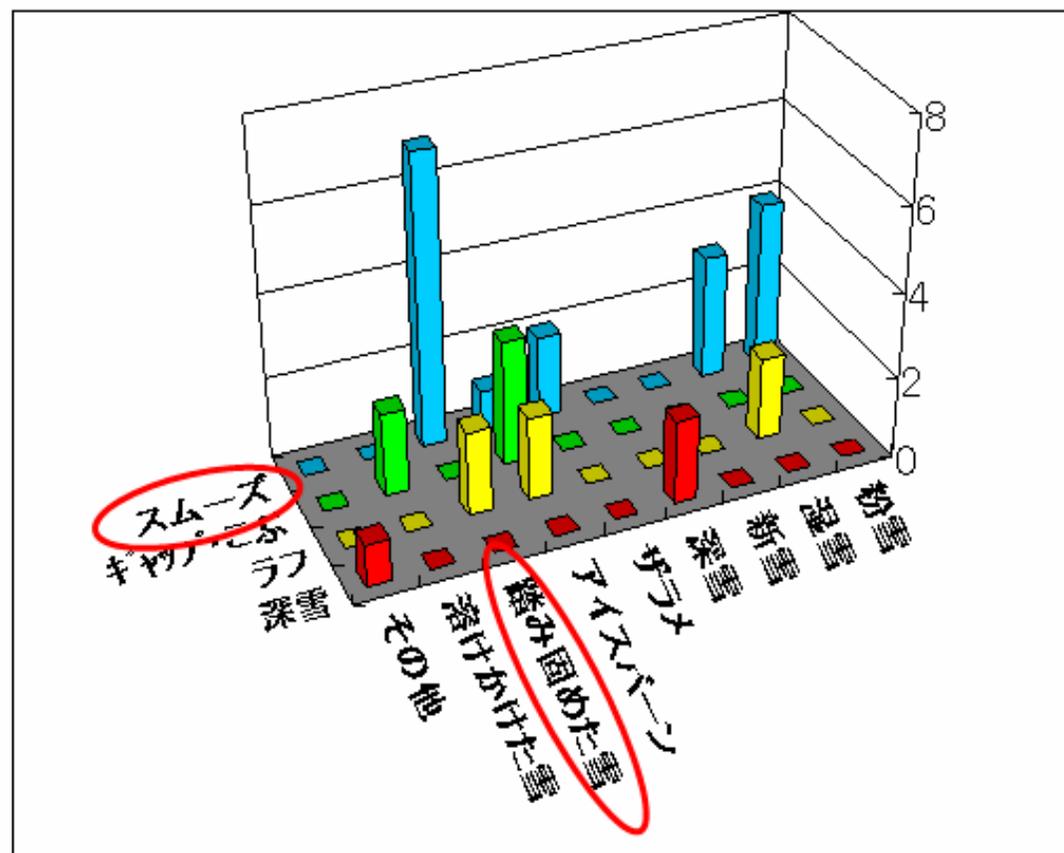
- ・ 課題の与え方
- ・ スタート前の安全確認



雪質、斜面状況別傷害事故度数

- 踏み固めたスムーズな斜面で圧倒的に多い
- ひねり運動が難しい状況も要注意

板をコントロールする技術が大切



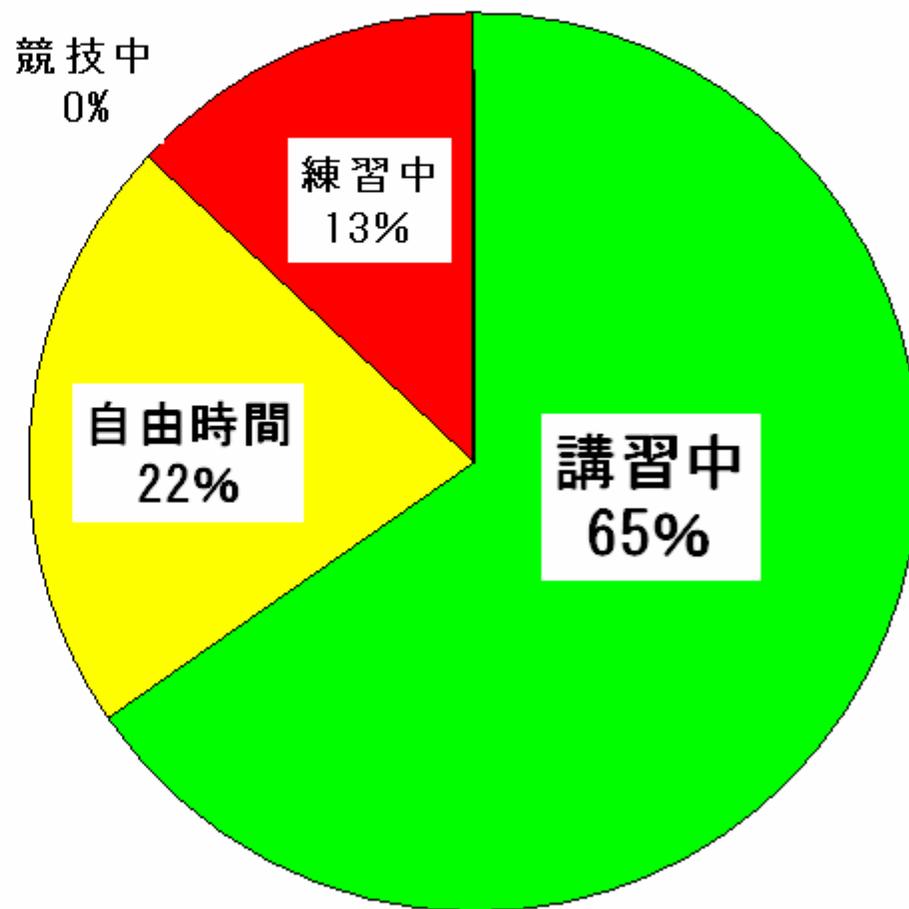
講習会の統計

傷害発生時の状況

- ・講習中の事故が圧倒的に多い
- ・自由時間や練習中にも事故に遭遇



- ・生徒の安全確保を
- ・単独でも事故を防げる技術/安全指導も



衝突時の状況

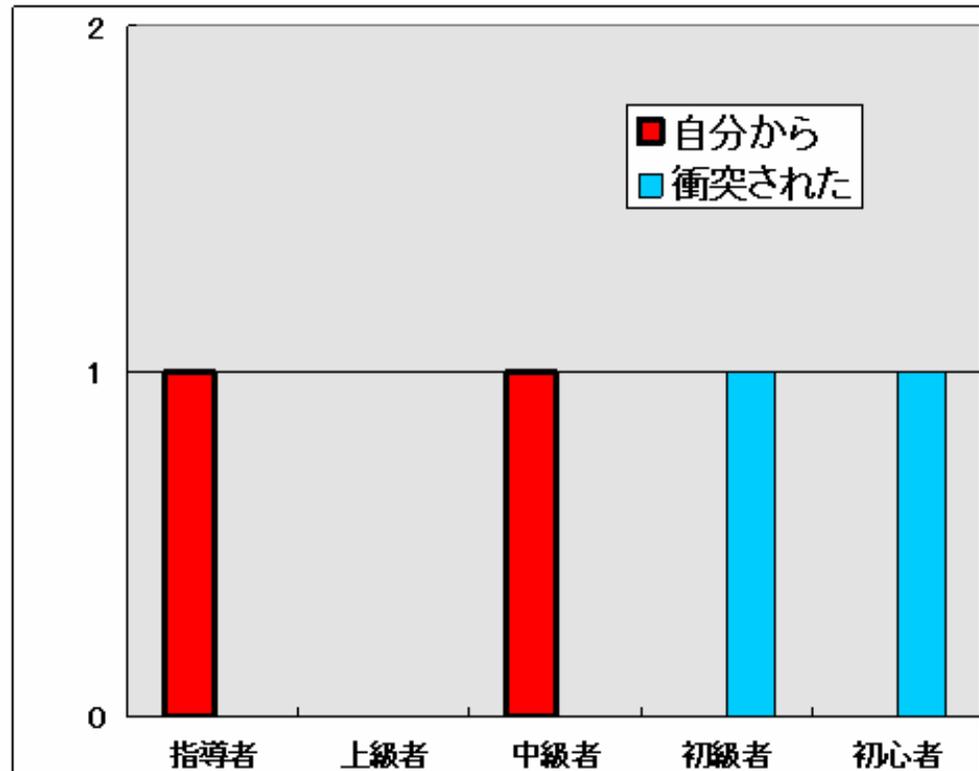
講習中に衝突する

指導者のラインを滑ろうとする
課題に集中して滑る
慣れない課題をこなしきれない

周囲への注意が疎かに
◎指導者の注意が重要

自由時間にも
周囲への注意不十分

◎指導を通じて注意喚起
◎指導者自身も注意

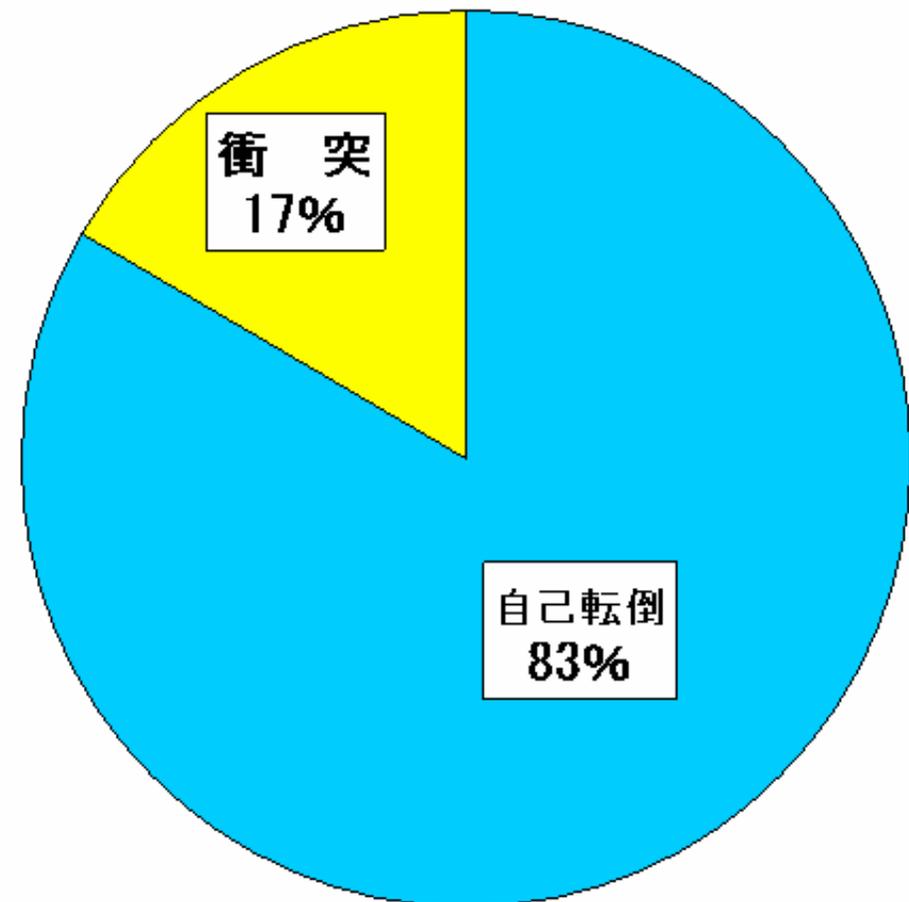


受傷原因

衝突事故
減少傾向から増化
自己転倒優位が続く

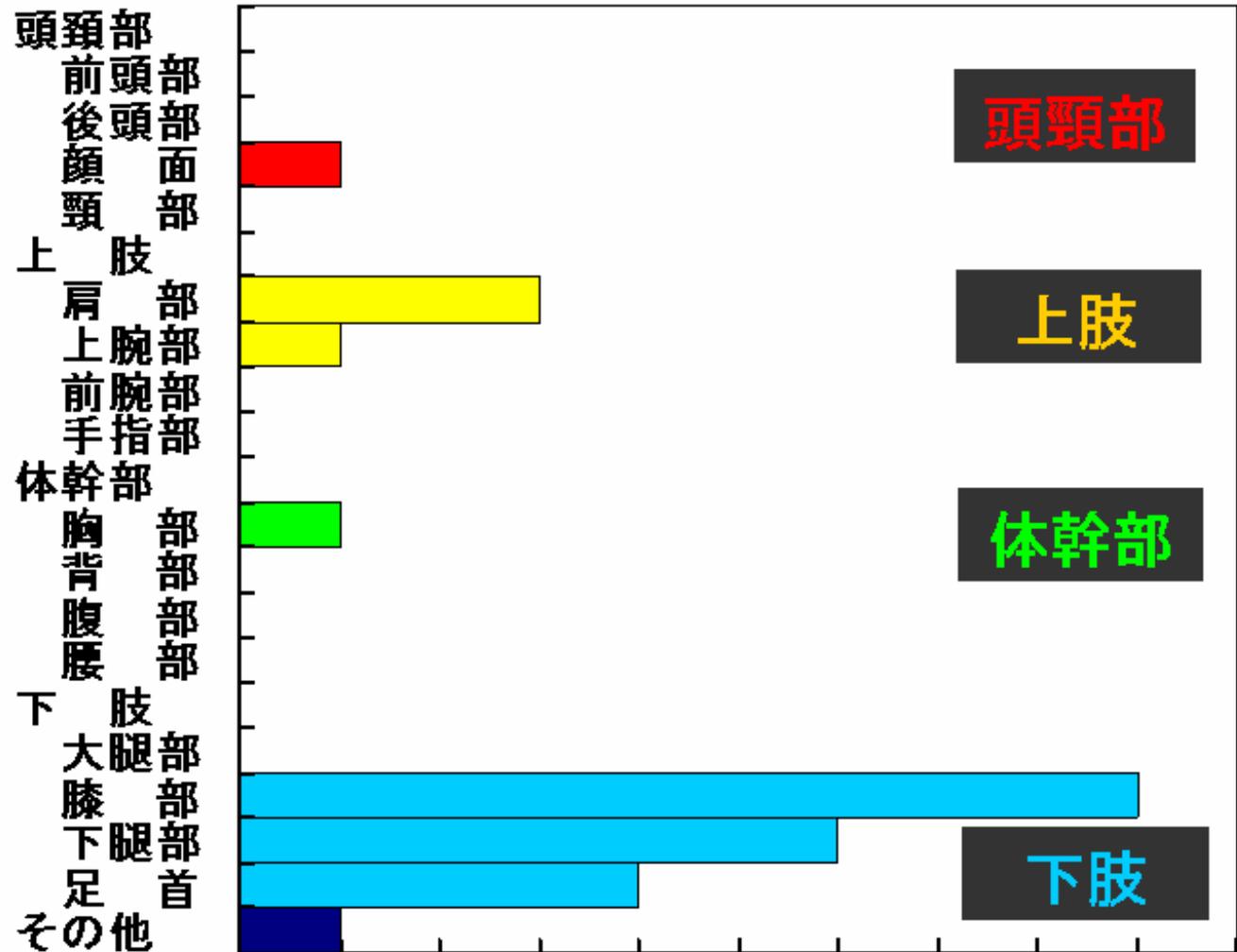
↑
講習中の統計

無理のない技術指導を



受傷部位

膝の傷害が
非常に多い



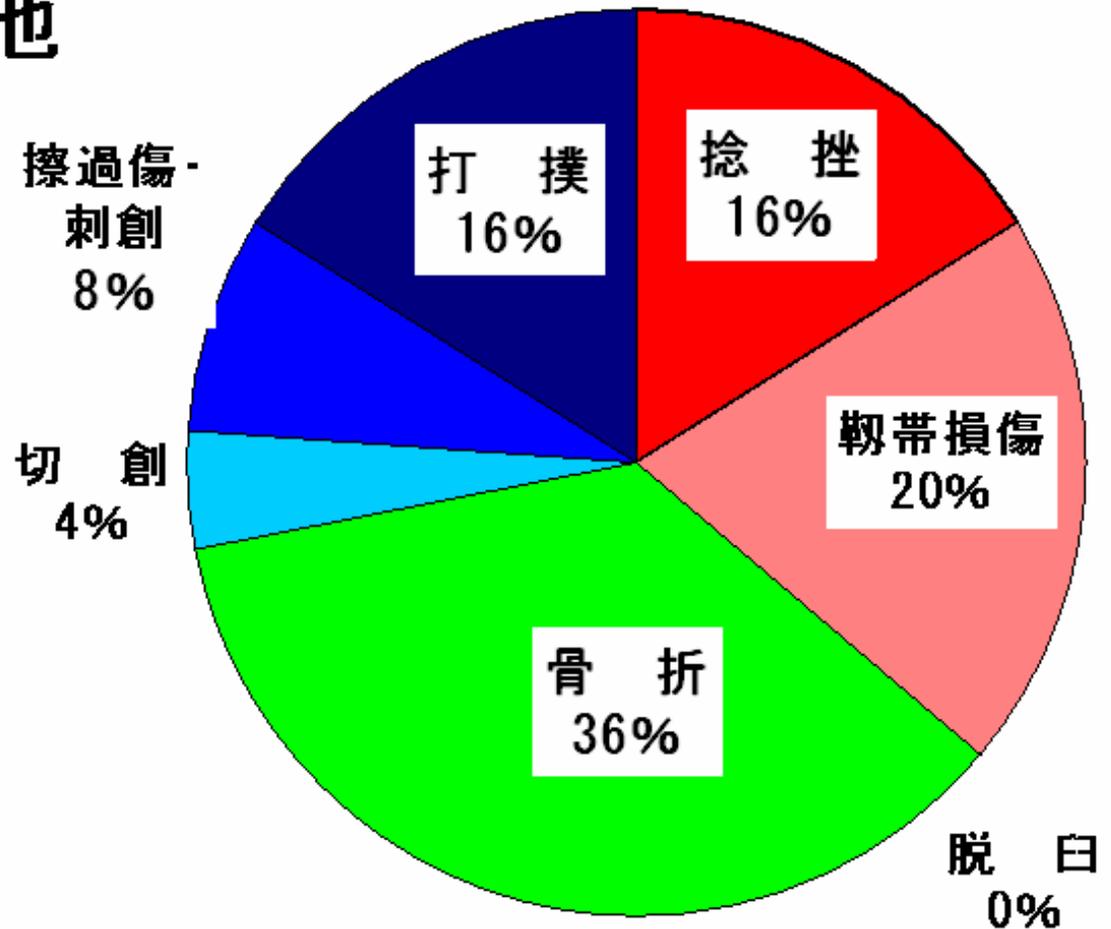
障害の種類

靭帯周囲の損傷の他

骨折が増加傾向

板に滑らされて
技術以上の速度に

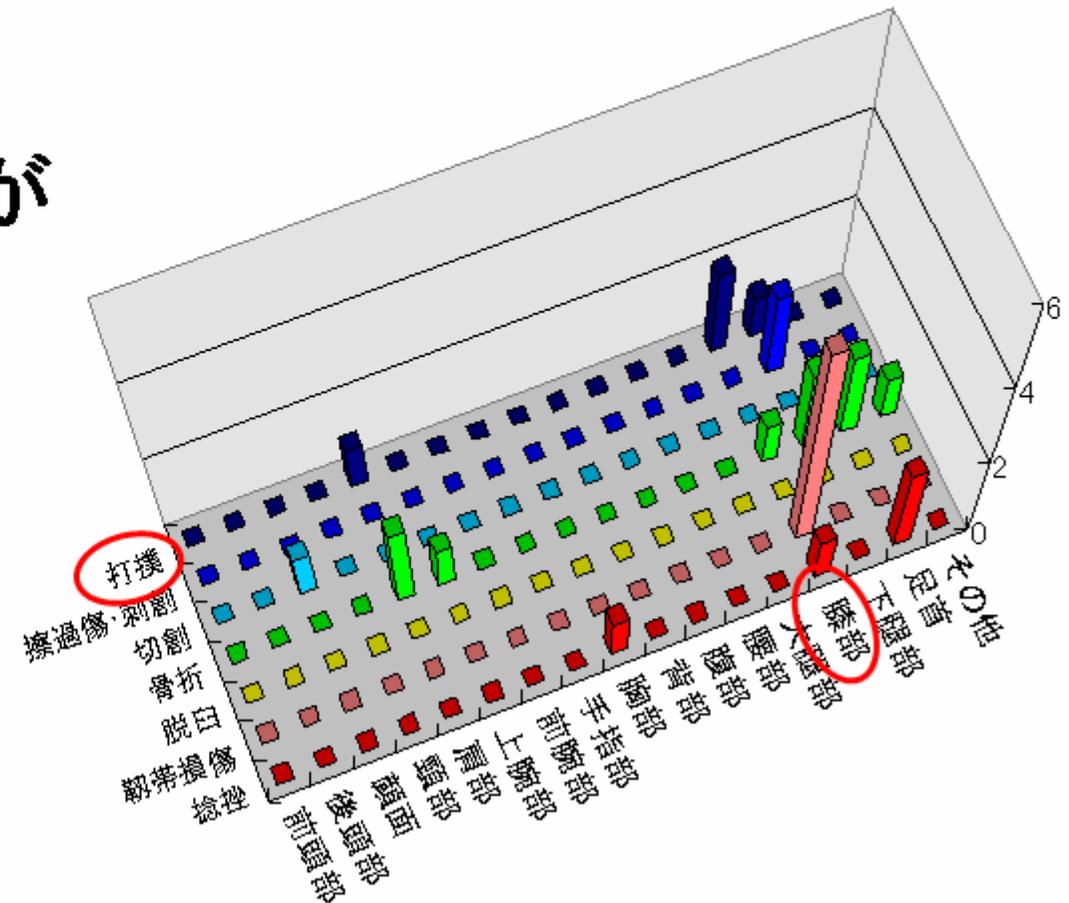
**速度制御技術を
十分に指導**



傷害部位と外傷の種類

- 膝関節の靭帯損傷が多い

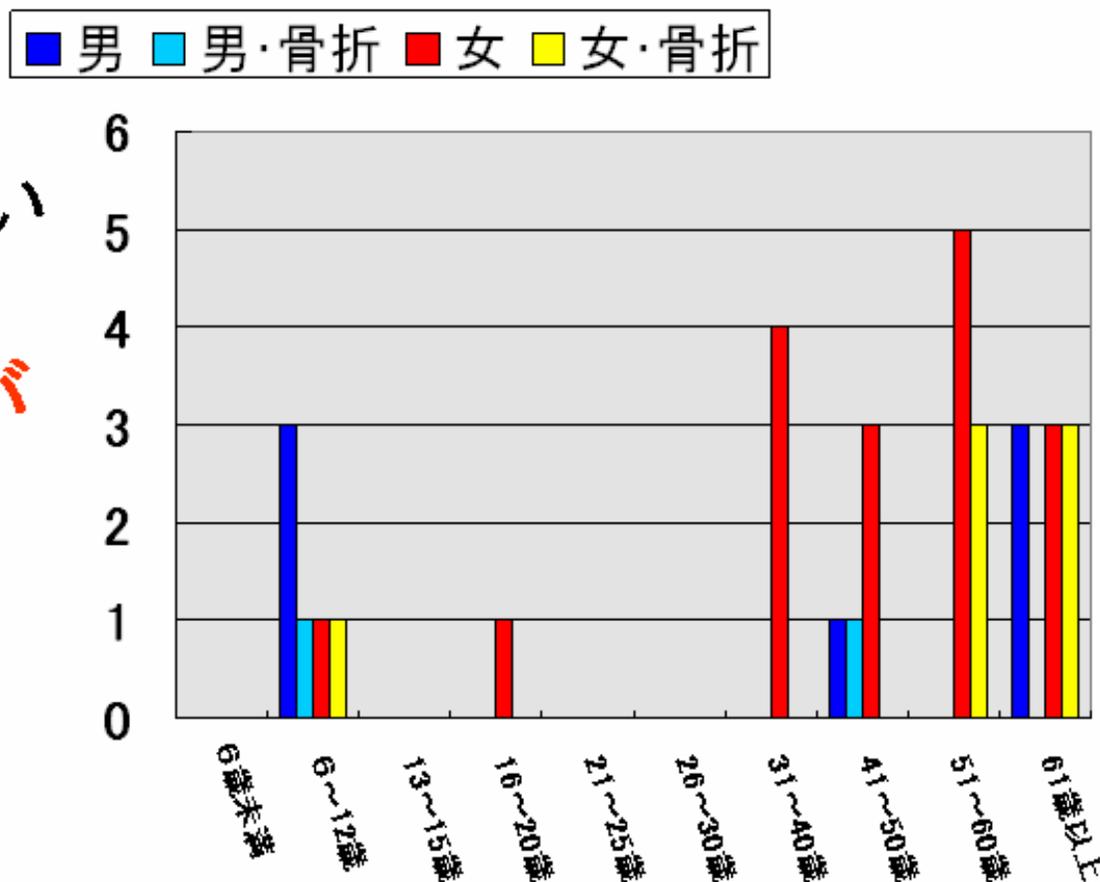
スキー操作技術の
多様化への対応



年齢別、性別の骨折の割合

傷害の性差が縮小
高齢女性は骨折率高い

スピード制御技術が
定着
多様なスキー操作
技術の習得過程で
傷害防止が必要



ビンディングの強度

強度は概ね適切

自己責任が
浸透してきた

PL法については
引き続き注意喚起

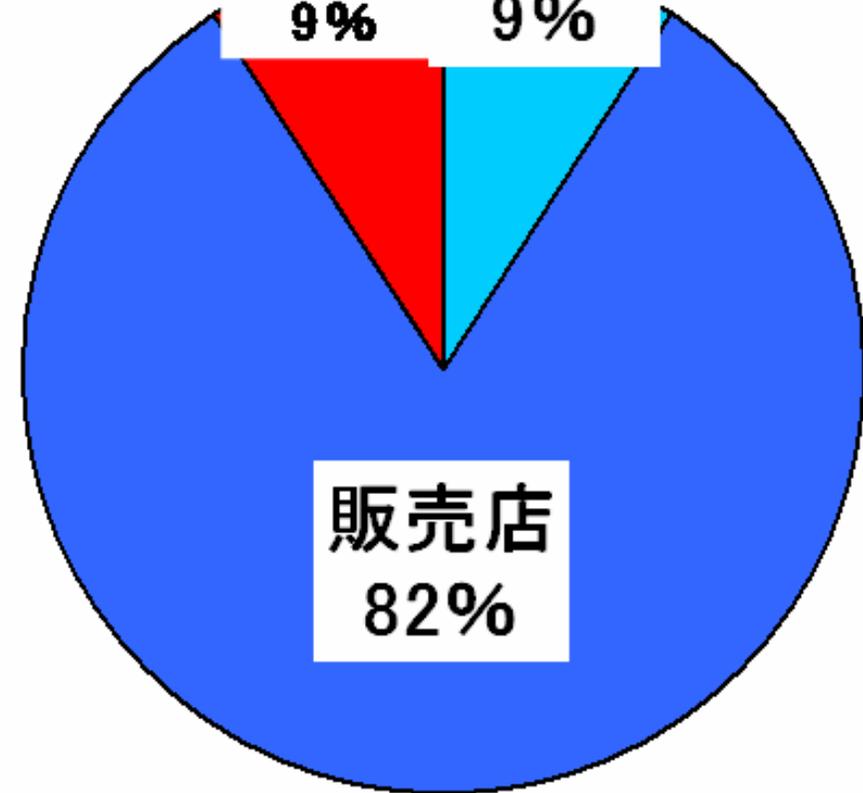
指導員
0%

パトロール
0%

知人・友人
0%

その他・
不明 9%

自分で
9%



スキー学校での配慮事項

- 受講生の状況把握の重要性
- 他の講習との位置関係に要配慮
- 混雑していない中斜面、緩斜面は要注意
- 用具の選択、調整の指導
- 適切な保険

指導者の配慮事項

- 指導者はヘルメット・帽子をかぶっていますか？
- 講習場所の安全に配慮していますか？
- 合図にストックを使っていませんか？
- 講習中、生徒の技術を超えた技術を使って滑っていませんか？
- ワンライン(トレーン)で滑らせていませんか？
- リフトのセーフティバーの正しい使い方、ストックの安全な取り扱いを指導していますか？
- 各指導者は事故に対処できますか？
- 事故時の連絡体制を確立してありますか？

ストックの安全な取り扱い

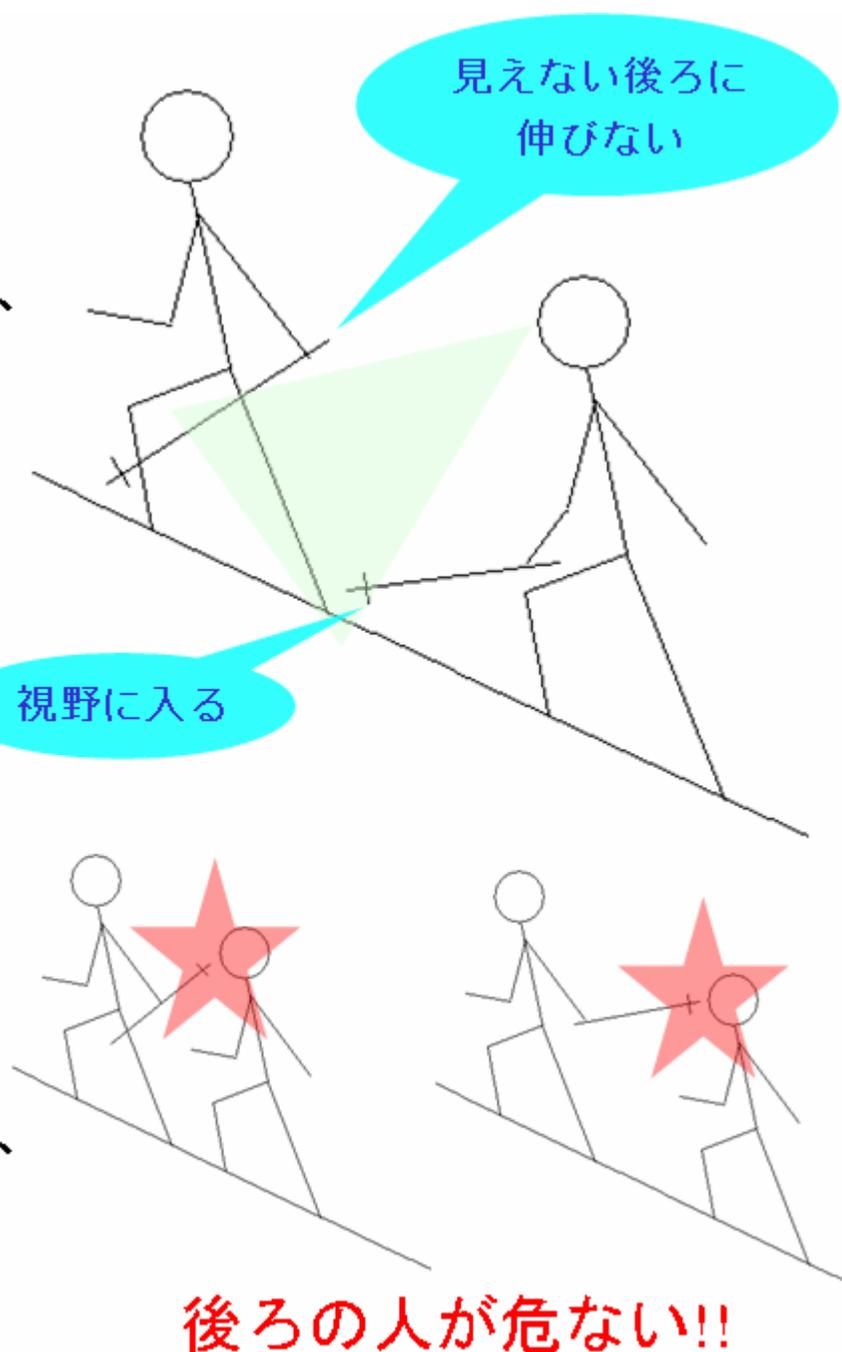
ストックの先端は「石突き」と呼ばれ、凶器になり得ます。常に視野の中に置き、絶対に**高く挙げたり、人に向けたりしてはいけません。**受講生に徹底しましょう。

合図にストックを使わない

遠くにいる受講生に**合図**するときは、**ストックは手革をはずして傍らに置き、手を大きく振ったり、声を出したりして正しい見本を見せましょう。**

ストックの持ち方

歩くときは、後の人を傷つけないように、石突きを**前方下に向け、グリップを持つ**よう指導しましょう。

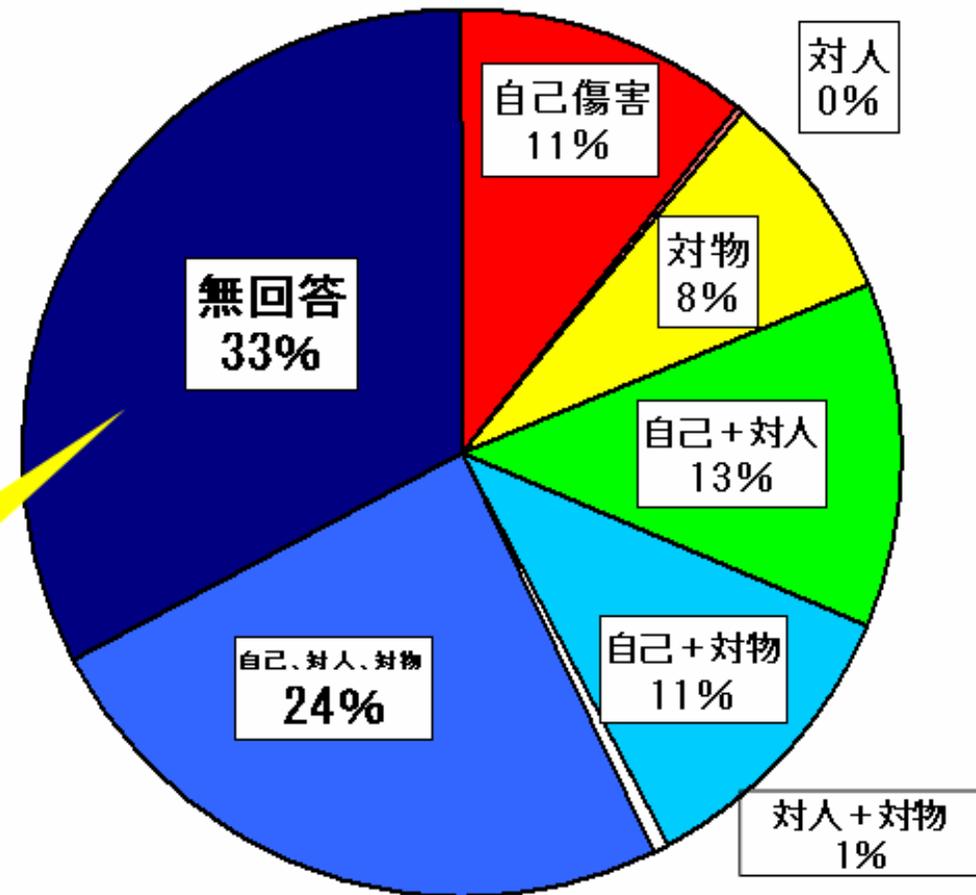


障害保険の種別

対物のみが減少
自己傷害・対人・対物の
3点セットが次第に増加

掛け金は高くない
3点セットで!!

傷害事故報告書
Q1までには
必ず回答ください。



報告書：特に重要な記入箇所

④ - 3

財団法人 東京都スキー連盟会長 殿

スキー傷害事故報告書

別紙記入要領を参照のうえ、必要事項を記入し、**スキー学校報告書と共に必ず提出**

また、事故発生時は、負傷者1名につき1枚提出してください。
この報告書は、傷害防止対策の資料とします。他の目的には使用しません。

スキー学校認定番号

検定共催番号

団体番号

団体名:

実施期間：20 年 月 日（ 曜日）～20 年 月 日（ 曜日）

実施場所： _____ 道・県 / _____ スキー場

講習総人数： 名

講習班数： _____ 班 / 1班平均： _____ 名

安全対策担当者氏名： _____

Q1

傷害事故発生

有

無

→ ご協力ありがとうございました。

傷害事故発生日： _____ 年 月 日（ 曜日） / 天候： _____

報告書：特に重要な記入箇所

傷害事故発生日： 年 月 日（ 曜日） / 天候：

Q2		Q3		Q4		Q5	
Q6		Q7		Q8			
Q9						41→	Q10
Q11						44,58→	Q12
Q13							
						死亡	
Q14		Q15		76→	Q16		
		Q17		85→	Q18		
Q19		Q20		Q21		Q22	
Q23		99→	Q24				
		100→	Q25		Q26		
				106→	Q27		
Q28		Q29		Q30		122→	Q31
Q30		Q34					Q32
Q35							
Q36							

ご協力ありがとうございました。